

東北 VALUE SIGHT 山形



山形県立酒田光陵高等学校
ビジネス流通科長 教諭
一般社団法人SKIES 理事 公益研究会メンバー
梅津 吉絵 (うめつ・よしえ)

大阪市港区生まれ。
山形県立酒田商業高等学校卒業後、就職進学(東洋計器株式会社・大阪経済大学経営学部)し、教職に。
1995年 山形県立北村山高等学校 常勤講師
1996年 山形県立新庄南高等学校教諭～現在に至る

山形県立酒田光陵高等学校
山形県酒田市北千日堂前字松境7-3
TEL 0234-28-8833
URL <http://www.sakatakoryo-h.ed.jp/wp/>

山形県立酒田光陵高等学校ビジネス流通科では、地域が抱える課題について学び、解決するための取り組みを続けてきた。しかし、生徒の卒業や教員の異動などでこれまで積み上げてきた地域との連携が途切れることもあった。このたび、一般社団法人を設立して持続的に取り組むこととなり、さらなる展開が期待される。

学びの深化と地域活性化の同時実現を 可能にする一般社団法人を目指して ～地域と連携したリーダーシップパイプラインの 構築を酒田光陵高校から“つなぐ”～

一般社団法人SKIES(スカイズ)とは

酒田光陵地域協働本部(酒田光陵高校 社会のための世代間事業～Sakata Koryo Intergenerational Enterprise for Society)は、一般社団法人SKIESとして平成30年2月9日に登記をした。法人としての“出生届”を実現できたのは、本校国際経営科及びビジネス流通科生徒の責任感と当事者意識で自ら定めた『地元酒田のこんな問題を解決したい!』という具体的な目標・夢、実現しようとする行動力、そしてその思いに共感してくださった本校鈴木和仁校長、齋藤俊勝同窓会長のおかげである。ここに至った経緯を商業教育の紹介とともにお伝えしたい。

課題解決学習を60年以上前から実施している商業教育

山形県では平成30年度、県立高校3校に探究科、3校に普通科探究コースが新たに設置された。県教育委員会のHPに『これは、各教科で学んだ基礎的な知識・技能を活用し、自ら見つけた課題の解決に向けて主体的・協働的に取り組む「探究型学習」に重点を置く学科・コース』と紹介されている。しかし、商業を学ぶ学科を設置している本県の高校では生徒商業研究発表大会を毎年10月に実施し、商業の視点で地域の現状を調査研究、商品開発や地域活性化のアイデアを考案、プレゼンテーション技術の研鑽とともに発表する。これまで62回実施されており、昨年度は山形市立商業高等学校が全国優勝を果たしている。この大会の注目点は審査基準である。研究の流れが(仮説→企画→実践→検証→課題)に則り実施されていなければならない。このプロセスは現代のビジネスに必要なデザイン思考ではないか。すでに高校生が63年前から実施していたとは、諸先輩方の先見の目に尊敬の念を抱くばかりである。

CSRからCSVへ

私は平成16年度に旧酒田商業高校に赴任し、前任の庄内総合高校で「産業社会と人間」という科目の事務局を経験したことから、総合科目『課題研究

のボランティア講座を担当した。近隣の方との花植え活動や募金活動、保育園訪問等を実施しCSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)の善行・シチズンシップの体験を行った。平成19年度より講座名をCSRに変更し、地域の課題を学ぶなど学習領域を広げていった。

平成24年度に酒田市内の公立4校が統合、酒田商業高校は酒田光陵高校国際経営科としてスタートした。翌年度にCSR講座の生徒が前述の県高等学校生徒商業研究発表大会に出場することになり、酒田市役所が開催する出前講座を活用、地域の“困り感”を調査した。

SKIESのベースとなる障がい者支援の始まり

出前講座を聴講するにあたり、生徒への指導ポイントは、過去のあら探しではなく、“未来はこうあるべきだ”“こんなことができれば素敵な世界になる!”を想像し、その未来図と現状のギャップを埋めるにはどうしたらよいかを、自分が課題解決の当事者として思考するよう徹底したことである。

そこで出会った課題が平成24年4月に改正された障害者雇用促進法と企業の支援と責任についてである。罰金を払ってでも障がい者を雇用しない、障がい者の授産施設での所得が1カ月1万円に満たない現実。商業科科目『経済活動と法』では日本国憲法や民法などを学ぶ。生徒は憲法第25条・27条の内容及び本間光丘を輩出した公益のまち酒田のイメージと、現状とのギャップに衝撃を受けた。商業を学ぶ人間の社会的責任として、障がい者の所得向上を目指した活動を始めることにした。この年度を起点に

授産施設製品の販路確保・商品開発・情報発信を継続して行い、平成26年度からは校内の昼食販売に授産施設製弁当の導入を実現、27年度からさかた産業フェアの出展者向け弁当販売業務を請負う等、恒常的な販路を創出した。この活動を地元の行政・企業・上級学校をはじめとする多くの方が賞賛と支援をしてくださり、多様な視点による助言や学習の場を提供していただくようになった。この実践は平成28年度で閉科した国際経営科からビジネス流通科が引き継いでいる。活動の範囲はインバウンドをはじめとする酒田市の観光事業の活性化に広がり、酒田市のニュージーランドホストタウン事業PRに参加し、連携・協働を実施している。

CSRからCSVに～サステナブルな連携と活動にしたい! NPO法人設立の発想～

生徒が活動成果として「研究活動が商業科の学びにつながる」と気付いたことから、私自身が、この実践は学校の本業である学習の深化が社会の発展に寄与するCSV(Creating Shared Value=社会との共通価値の創造)だと認識した。しかし教育現場は年度が変わると生徒も教員も代わる。その度にこれまでの活動が途切れることもある。これまでつなぎ、築いてきた地域との連携を途切れさせることはCSRに反する。そこで平成28年度に生徒が考案したのがNPO法人の設立であった。活動の継続と課題であった資金面を解決するためである。法人として納税をすることこそが真のCSVではないか、という考えもあった。その思いに共感してくださった鈴木本校長先

生の助言により、「つなぐ」をテーマに、他学科と連携し、幅広く地域連携ができる法人へと構想を膨らませ、最終的にはNPO法人ではなく一般社団法人としてSKIESが誕生したのである。

工業科・情報科・普通科とともに酒田光陵高校にしかできない協働と地域活性化の実現

本校は商業科を含め4大学科が設置されている東北・北海道の公立としては最大規模の高校である。各学科の特色と学びがあり、それぞれの学科の視点の違いから「気付く」課題解決案が生まれる可能性が高い。既存の財産を「つないで、新たな価値を生み出す」人財育成を目指す私には素晴らしい環境である。特色溢れる各学科をつないでまとめるリーダーシップの育成が今後の課題であり、全体俯瞰力を身に付けるための指導方法を研究していきたい。さらに、学びの深化と地域活性化の同時実現の可能性を高めるため、今後は法人設立に至った目的を校内外の多くの方々にご理解をいただき、地域を支える人財育成のフューチャーセンターとしてこの法人が活用されるよう、日々研鑽していきたい。



ニュージーランド駐日大使を歓迎する酒田光陵高校ビジネス流通科の生徒たち(酒田市は2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける、ニュージーランドのホストタウンとして、交流を進めている)